

科目コード	25100	区分	専門基礎科目			実務経験のある教員等による授業科目			
授業科目名	体育原理	担当者名	早田 剛			○			
		実務経験との関連	医療機器製造業会社での研究開発者としての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。						
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

体育原理とは、体育の本質的追求である。また、よい体育とは何かを明らかにし、それを発展させるには何が問題であるかを科学的法則に基づいて、その原理を示す役割を持っている。本講義では、体育・スポーツの発生の契機、社会におけるその定着の歴史的な過程、その展開を平和的に管理するルールの特質、さらには現代社会におけるスポーツのあり方等を検討することにより、体育を重要な教材として取り入れる体育教育の今日的意味を再確認する。

<授業の到達目標>

体育・スポーツの基礎概念について考えていくことにより、体育学・スポーツ科学を専門的に学ぶための基礎的知識を身につけるとともに、体育・スポーツを批判的に検討できる能力・思考の育成を目指す。

<授業の方法>

授業の流れ 1. 予習課題の確認 (約10分) 2. テーマに沿った解説と問いの提示① (約10分) 3. 意見交換：上記テーマに即した意見提出とディスカッション (約20分) 4. テーマに沿った解説と問いの提示② (約10分) 5. 上記テーマに即した意見提出とディスカッション (約20分)：字数制限有 6. プレゼン発表もしくは課題レポート作成次週課題の確認 (☐自宅学習：約30~60分)

<成績評価方法> ※課題 (試験やレポート等) に対するフィードバックの方法

予習課題：20%、意見交換：20%、授業後レポート：40%、※最終レポート：20%として、総合的に評価する。

<教科書>

B5判/218ページ (令和4年度発行版) <https://www.taishukan.co.jp/hotai/high/product/?type=textbook&id=59>

現代高等保健体育 保体「701」 () ISBN:9784469663198

大修館書店

<参考書>

友添秀則、岡出美則 編 (2016年)

教養としての体育原理

大修館書店

高橋 徹 編 (2021年)

はじめて学ぶ体育・スポーツ哲学

サンメッセ株式会社

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	体育原理とは	1) ガイダンスとして、授業概要を確認する 2) 体育原理という学問が必要なのかについて学び、体育学科を卒業する意味を検討する
2	体育とは	体育とは何か、体育の理念はどう変わってきたかを学び、自分の意見を検討する
3	体育とスポーツは何が違うのか	体育とスポーツの混同と混用について学び、自分の意見を検討する
4	身体からみた体育の可能性	学校教育と身体教育について育てるべき「身体」を考え、(できる)とはどういうことかを検討する
5	体育で競争をどう位置付けるか	体育における競争とはどういう位置付けるかを学び、自分の意見を検討する
6	体育における人間形成	体育における人間形成とはどういう意味かを学び、自分の意見を検討する
7	体育と指導者	体育教師とコーチは何が違うのかを学び、自分の意見を検討する
8	スポーツと科学	スポーツ科学は、様々な情報(データ)に基づいて、スポーツ活動を充実させるためのアイデアを提供する学問分野を理解し、活用方法についての自分の意見を検討する
9	運動部活動の意義と課題	運動部活動の意義と課題を学び、自分の意見を検討する
10	プレイが生み出す体育の可能性	スポーツとプレイ(遊び)について学び、自分の意見を検討する
11	スポーツとルール	ルールの正しい「解釈」が必要であることを理解し、自分の意見を検討する
12	スポーツと文化	身体に文化を伝承するプロセスについて、教育的な行為との関係から学び、自分の意見を検討する
13	スポーツとビジネス	スポーツにおけるビジネス化の構造やそれを牽引する仕組みについて理解を深めるとともに、課題について検討する
14	スポーツと社会	スポーツ需要の質的变化に対して、その課題を解決を促す新たな体育・スポーツ需要を検討する
15	スポーツとコミュニティまとめ	1) スポーツとコミュニティを取り巻く現状と課題について理解を深め、地域づくりなどについて検討する 2) 体育原理を総括する

科目コード	25103	区分	専門基礎科目	実務経験のある教員等による授業科目					
授業科目名	発育と発達	担当者名	田中 耕作/早田 剛	○					
		実務経験との関連	担当者の中で医療機器製造業会社での研究開発者としての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。						
配当年次	1	配当学期	後期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本講義では、幼少年期における身体の形態や機能が変わっていく発育と発達と老化についての基礎的知識を習得することを目的とする。

<授業の到達目標>

発育発達と老化の観点から、体力と運動能力、また運動発達の知識を身につける。また、その知識を（公財）日本スポーツ協会公認「ジュニア・スポーツ指導員」はじめ、体育・スポーツ指導者資格取得に繋げることを目的とする。

<授業の方法>

各テーマに沿った内容を資料やパワーポイントを用いて解説する。また、毎時間において、前時の講義内容について小テストを実施する。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

日常の授業における実践的な態度および小テストを含む課題提出（70%）。また、最終講義を終えた上でのまとめのテスト（30%）を実施し、以上を総合的に評価する。

<教科書>

教科書は使用しないが、各單元ごとに資料を配布する。

（公財）日本スポーツ協会（2019）

公認ジュニアスポーツ指導員テキスト専門科目テキスト

（公財）日本スポーツ協会

杉原隆・河邊貴子（2014）

幼児期における運動発達と運動遊びの指導-遊びの中で子どもは育つ-

ミネルヴァ書房

<参考書>

（財）健康・体力づくり事業財団（2008）

健康運動指導士養成講習会テキスト

（財）健康・体力づくり事業財団

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	受講上の注意、評価方法、講義の概要
2	体力とは	体力と運動能力について
3	健康とは	健康に関する概念について
4	からだ（形態）の発育発達	発育発達期の身体の発達について
5	発育発達期におけるケガの実態	発育発達期に多いケガや病気について
6	発育発達期の運動プログラム	コーディネーションとは
7	動作の発達と体力測定①	幼児体力指針と新体力テスト
8	動作の発達と体力測定②	歩く・走る・跳ぶ
9	動作の発達と体力測定③	投げる・捕る・体を支える
10	運動発達の捉え方①	体力・運動能力の発達と遊びの効用
11	運動発達の捉え方②	運動発達における年齢と性差
12	運動発達の捉え方③	運動コントロール能力における年齢と性差
13	老化と生活習慣①	フレイルとは？
14	老化と生活習慣②	メタボリックシンドロームとロコモティブシンドローム
15	まとめ	全時限の講義内容のまとめ

科目コード	36501	区 分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目			
授業科目名	運動器の解剖と機能 I	担当者名	河野 儀久			○			
		実務経験との関連	医療機関所属のストレンクス&コンディショニングコーチ、アスレティックトレーナーとしての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。						
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

機能解剖や運動学に関する専門的な知識を有し、スポーツ傷害を受けた競技者の競技復帰までのリハビリテーションにあたることのできる技能を持つ指導者の養成を目指している指導者の基礎となる運動器の解剖や機能概論の知識養成を図ることを目的としている。

<授業の到達目標>

ヒトの運動器が人体とどのように関わっているのか、その機能解剖や生体力学の知識は運動器に拘わらずすべてのリハビリテーションを行うにあたっての基礎であり必須であると思われる。リハビリテーションの参考になるとと思われる機能解剖と生体力学について解説する。

<授業の方法>

予習を重視する。予習用の資料を配布し、教科書を基に予習をおこなった上で授業・実習等を進めていく。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

小テスト等の課題 50%、定期試験50%で成績評価する。但し、定期試験において60%以上の評価点を取得した者に対し前記の成績評価を行う。事前学習、小テストに関するフィードバックは講義中または個別に行う。

<教科書>

財団法人日本体育協会（2011.2.1）

「公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト②」

日本スポーツ協会

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	機能解剖学とは
2	体表区分	人体の区分
3	運動の表し方	基本多岐な関節運動
4	運動器の構造と機能	骨の構造
5	運動器の構造と機能	関節の九蔵と機能
6	運動器の構造と機能	靭帯の構造と機能
7	運動器の構造と機能	筋・腱の構造と機能
8	運動器の構造と機能	骨格筋の構造と機能
9	体幹の機能解剖と運動	脊柱の運動
10	体幹の機能解剖と運動	頸椎の運動
11	体幹の機能解剖と運動	胸椎の運動
12	体幹の機能解剖と運動	腰椎の運動
13	体幹の機能解剖と運動	仙椎の運動
14	体幹の機能解剖と運動	骨盤の運動
15	まとめ	総合学習

科目コード	36502	区分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目			
授業科目名	運動器の解剖と機能Ⅱ	担当者名	河野 儀久			○			
		実務経験との関連	医療機関所属のストレングス&コンディショニングコーチ、アスレティックトレーナーとしての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。						
配当年次	1	配当学期	後期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

機能解剖や運動学に関する専門的な知識を有し、スポーツ傷害を受けた競技者の競技復帰までのリハビリテーションにあたることのできる技能を持つ指導者の養成.を目指している指導者の基礎となる運動器の解剖や機能概論の知識養成を図ることを目的としている。

<授業の到達目標>

ヒトの運動器が人体とどのように関わっているのか、その機能解剖や生体力学の知識は運動器に拘わらずすべてのリハビリテーションを行うにあたっての基礎であり必須であると思われる。リハビリテーションの参考になるとと思われる機能解剖と生体力学について解説する。

<授業の方法>

予習を重視する。予習用の資料を配布し、教科書を基に予習をおこなった上で授業・実習等を進めていく。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

小テスト等の課題 50%、定期試験50%で成績評価する。¥n但し、定期試験において60%以上の評価点を取得した者に対し前記の成績評価を行う。¥n事前学習、小テストに関するフィードバックは講義中または個別に行う。

<教科書>

財団法人日本体育協会（2011.2.1）

「公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト②」

日本スポーツ協会

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	上肢・下肢・体幹の機能解剖と運動
2	運動器の構造と機能	上肢帯の運動
3	運動器の構造と機能	肩関節の運動
4	運動器の構造と機能	肘関節の運動
5	運動器の構造と機能	手関節の運動
6	運動器の構造と機能	股関節の運動
7	運動器の構造と機能	膝関節の運動
8	運動器の構造と機能	足関節の運動
9	運動器の構造と機能	足趾関節の運動
10	運動器の構造と機能	手指関節の運動
11	運動器の構造と機能	上肢帯の筋・血管・神経
12	運動器の構造と機能	下肢の筋・血管・神経
13	運動器の構造と機能	頸部の筋・血管・神経
14	運動器の構造と機能	腰部の筋・血管・神経
15	まとめ	総合学習

科目コード	38200	区分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目			
授業科目名	保健体育科指導法 I (基礎) PP+他学科	担当者名	久田孝			○			
		実務経験との関連	高等学校教員としての実務経験がある教員が、実務経験をもとに教職について指導する。						
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本科目は、教科「保健体育」を中心とした学校体育の諸活動を対象に、その教育方法上の原理を明らかにする学問であり、中学校・高等学校の普通免許状（保健体育）の取得要件として設定されている専門科目である。自分の経験を振り返り、自らの思考の枠組みをくずしながら、学習指導要領をもとに、最新の保健体育科教育の方向性について理解し、『21世紀の学校体育の在り方』を探究していく。

<授業の到達目標>

1. 保健体育科の基礎的知識を習得し、学習指導要領に示された意義や目標・内容を理解することが出来る。2. 学校体育における今日的課題を整理し、これからの学校体育の在り方について考察を深め、論理的に言語化することができる。3. 積極的に事前・事後学習・レポートに取り組むことができる。

<授業の方法>

1. 講義及び対話的活動（教員による解説と問いかけ・質疑応答） 2. 省察活動（まとめと振り返り） 3. 協働的活動とディスカッション 4. 資料の提示や課題の提示、提出等はGoogleclassroomで行う。また、確認テストは主にGoogleformを用いて実施する。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

小テスト30%、期末試験60%、授業への取り組み10%で総合的に評価する。小テスト・定期試験では、保健体育科の基礎的知識や学習指導要領に示された意義や目標・内容についての理解度を評価する共に、授業中の意欲的態度、課題の遂行度を評価する。レポートは、授業内で扱われた理論を自分の中で再構築して適切に論述しているものを評価する。

<教科書>

文部科学省（平成29年7月）
「学校学習指導要領解説—保健体育編—」
東山書房
高橋健夫他（2010）
体育科教育学入門
大修館書店

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	授業の概要と進め方
2	保健体育科教育学で何を学ぶのか	授業の構造と教師の役割
3	保健体育とはどのような教科なのか	体育の持つ特異性と危険性
4	学校制度と保健体育科	学習指導要領の歴史的変遷と社会的背景
5	今、保健体育科に求められているもの	保健体育科の今日的課題と方向性
6	保健体育科で育みたい資質・能力	学習指導要領における保健体育科の目標の検討
7	体育の学習内容とは	運動の特性と分類
8	体育における教材と学習内容をめぐる議論	運動という文化の構成要素
9	体育のカリキュラム	年間指導計画の事例検討
10	体育の目標と内容の関係	体育の学習内容の捉え方による相違点
11	体育の授業づくりと動機づけ	自己決定論、子どもの自発性と教師の指導性
12	体育の学習形態	学習形態の類型
13	体育の学習評価	学習評価の現状と課題
14	保健体育科の内容構成	学習指導要領における分野・領域
15	まとめ	これからの保健体育授業を考える

科目コード	38201	区分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目			
授業科目名	保健体育科指導法Ⅱ(応用) [PP 教員希望者用]	担当者名	柴山 慧/清田 美紀			○			
		実務経験との関連	高等専門学校教員、小学校教員、教育委員会職員としての実務経験がある教員が、実務経験をもとに教職について指導する。						
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本科目は、中学校・高等学校の普通免許状（保健体育）の取得要件として設定されている専門科目である。すでに履修している保健体育科指導法Ⅰの基本的な知見をもとに、保健体育科の授業の在り方について探究すると同時に、各領域の授業デザインの検討を通して保健体育科の教材開発・授業計画について学ぶものである。したがって、本科目の履修は「保健体育科指導法Ⅰ（基礎）」を習得している者に限る。

<授業の到達目標>

1. 学習指導に関わる基礎理論・知識を習得し、教材を開発・作成することができる。2. 保健体育科の授業における「授業設計」及び「学習指導案」を計画・立案することができる。3. 教師として保健体育科の授業を行うということの自覚と責任と実践的指導力を身に付けることができる。4. 協働学習に主体的に参加し、積極的にグループに貢献できる。

<授業の方法>

1. 講義及び対話的活動（教員による解説と問いかけ・Google Classroomを用いた質疑応答） 2. 協働的活動（個人・ペア・グループワーク） 3. 模擬授業と授業観察（ICT機器を用いた資料提示や撮影を含む） 4. 省察活動（まとめと振り返り）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

筆記テスト 20%, レポート 20%, 指導案20%, 模擬授業20%, 教師として授業に臨む態度20%で総合的に評価する。マイクロティーチングでは受講態度も評価対象とする。とりわけ協働的活動における積極性・貢献度を重視して評価する。指導案は、多様な情報収集と授業構成要素を踏まえた緻密な計画を評価する。

<教科書>

文部科学省（平成29年7月）
中学校学習指導要領解説 保健体育編
東山書房
文部科学省（平成30年7月）
高等学校学習指導要領解説 保健体育編・体育編
東山書房
大修館書店
現代高等保健体育
大修館書店

<参考書>

岡出美則他（2021）
体育科教育学入門
大修館書店

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	授業の概要と進め方自身の体験から保健体育科の捉え方を問い直す。保健体育科指導法Ⅰのふりかえり、保健体育教師として必要な資質・能力について
2	よい体育授業とは	よい体育授業の条件
3	体育授業における教材・教具とは	教材づくり・教具づくりの意義と方法
4	体育授業の学習指導、器械運動・体づくり運動①（ここからクラス全体を半分に分けて、器械運動と体づくり運動、陸上競技と武道をそれぞれ実施）	教師の4大行動（ICTの利活用を含む）、器械運動・体づくり運動の構造的特性や授業方法
5	教材研究、器械運動・体づくり運動②	教材の選定と作成、器械運動・体づくり運動の模擬授業
6	授業づくり、陸上競技・武道①	陸上競技・武道の構造的特性と授業方法
7	授業実践、陸上競技・武道②	陸上競技・武道の模擬授業
8	教材研究、器械運動・体づくり運動①（半分に分けたグループを交代）	器械運動・体づくり運動の構造的特性や授業方法
9	器械運動・体づくり運動②	器械運動・体づくり運動の模擬授業
10	陸上競技・武道①	陸上競技・武道の構造的特性と授業方法
11	陸上競技・武道②	陸上競技・武道の模擬授業
12	リフレクション、筆記テスト（ここからクラス全体で授業に戻る）	リフレクションの理解、ここまでの授業のリフレクション、筆記テスト（教員採用試験の過去問から）
13	体育理論①	体育理論の概要や意義、授業方法について
14	体育理論②	体育理論の模擬授業
15	まとめ、筆記テストの再テスト	よい授業に向けて保健体育教師に求められるもの、筆記テストの再テスト

科目コード	38201	区分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目			
授業科目名	保健体育科指導法Ⅱ(応用) [PP 教員希望者用]	担当者名	柴山 慧/清田 美紀			○			
		実務経験との関連	高等専門学校教員、小学校教員、教育委員会職員としての実務経験がある教員が、実務経験をもとに教職について指導する。						
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本科目は、中学校・高等学校の普通免許状（保健体育）の取得要件として設定されている専門科目である。すでに履修している保健体育科指導法Ⅰの基本的な知見をもとに、保健体育科の授業の在り方について探究すると同時に、各領域の授業デザインの検討を通して保健体育科の教材開発・授業計画について学ぶものである。したがって、本科目の履修は「保健体育科指導法Ⅰ（基礎）」を習得している者に限る。

<授業の到達目標>

1. 学習指導に関わる基礎理論・知識を習得し、教材を開発・作成することができる。2. 保健体育科の授業における「授業設計」及び「学習指導案」を計画・立案することができる。3. 教師として保健体育科の授業を行うということの自覚と責任と実践的指導力を身に付けることができる。4. 協働学習に主体的に参加し、積極的にグループに貢献できる。

<授業の方法>

1. 講義及び対話的活動（教員による解説と問いかけ・Google Classroomを用いた質疑応答） 2. 協働的活動（個人・ペア・グループワーク） 3. 模擬授業と授業観察（ICT機器を用いた資料提示や撮影を含む） 4. 省察活動（まとめと振り返り）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

筆記テスト 20%, レポート 20%, 指導案20%, 模擬授業20%, 教師として授業に臨む態度20%で総合的に評価する。マイクロティーチングでは受講態度も評価対象とする。とりわけ協働的活動における積極性・貢献度を重視して評価する。指導案は、多様な情報収集と授業構成要素を踏まえた緻密な計画を評価する。

<教科書>

文部科学省（平成29年7月）
中学校学習指導要領解説 保健体育編
東山書房
文部科学省（平成30年7月）
高等学校学習指導要領解説 保健体育編・体育編
東山書房
大修館書店（令和4年）
現代高等保健体育
大修館書店

<参考書>

岡出美則他（2021）
体育科教育学入門
大修館書店

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	授業の概要と進め方自身の体験から保健体育科の捉え方を問い直す。保健体育科指導法Ⅰのふりかえり、保健体育教師として必要な資質・能力について
2	よい体育授業とは	よい体育授業の条件
3	体育授業における教材・教具とは	教材づくり・教具づくりの意義と方法、体育授業の学習指導
4	体育授業の学習指導、器械運動・体づくり運動①（ここからクラス全体を半分に分けて、器械運動と体づくり運動、陸上競技と武道をそれぞれ実施）	教師の4大行動（ICTの利活用を含む）、器械運動・体づくり運動の構造的特性や授業方法
5	教材研究、器械運動・体づくり運動②	教材の選定と作成、器械運動・体づくり運動の模擬授業
6	授業づくり、陸上競技・武道①	陸上競技・武道の構造的特性と授業方法
7	授業実践、陸上競技・武道②	陸上競技・武道の模擬授業
8	教材研究、器械運動・体づくり運動①（半分に分けたグループを交代）	器械運動・体づくり運動の構造的特性や授業方法
9	器械運動・体づくり運動②	器械運動・体づくり運動の模擬授業
10	陸上競技・武道①	陸上競技・武道の構造的特性と授業方法
11	陸上競技・武道②	陸上競技・武道の模擬授業
12	リフレクション、筆記テスト（ここからクラス全体で授業に戻る）	リフレクションの理解、ここまでの授業のリフレクション、筆記テスト（教員採用試験の過去問から）
13	体育理論①	体育理論の概要や意義、授業方法について
14	体育理論②	体育理論の模擬授業
15	まとめ、筆記テストの再テスト	よい授業に向けて保健体育教師に求められるもの、筆記テストの再テスト

科目コード	65047		区分	コア科目		実務経験のある教員等による授業科目				
授業科目名	キャリアマネジメント I		担当者名	竹本 豊		○				
			実務経験との関連	公務員（高等技術専門校校長、消防学校校長）としての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。						
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2単位	授業方法	講義	卒業要件	選択	

<授業の概要>

本科目は、公務員志望の学生だけでなく公務員に関心がある学生まで、幅広く想定している。公務員は、実際にはどのような仕事をしているのか、どのような心構えや使命感を持って取り組んでいるのか、などといったことを、行政・教育・公安（消防）分野での実体験を踏まえ、民間企業（会社員）と比較しながら解説する。学生ひとり一人が、公務員という仕事を身近に感じ、具体的にイメージできるようになることで、進路としての公務員への関心を高め、意欲的・主体的に公務員試験に臨めるようにする。

<授業の到達目標>

1. 地方公共団体のしくみ、特に民間企業との違いを理解する。2. 様々な職種の公務員がどのような仕事をしているかを大まかに把握する。3. 公務の基礎的な論点について、自分なりの考えを養い、他者と意見交換できるようになる。

<授業の方法>

1. 教科書を題材とする。ポイントとなる部分については、配布資料を利用するほか、適宜、公務の実態を伝えることで理解を深める。（質疑あり）2. 提示した論点（テーマ）について、グループディスカッションにより相互理解を深める。3. グループディスカッションの結果発表と意見交換。4. 質問等について、次の授業冒頭で解説することもある。※配布資料のダウンロードや質問について、classroomなどICTを活用する。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

1. 授業態度（25%）：ディスカッションや質疑での積極性、他の学生の理解促進への貢献を評価。2. 確認テスト（25%）：適宜、授業中に実施する確認テストにおいて、理解度を評価。3. 期末レポート（50%）：自主的な学習の達成度を評価。

<教科書>

自治研修研究会編（2023）
地方公務員フレッシュャーズブック（第6次改訂版）
ぎょうせい

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	授業全体の説明
2	地方公務員の心構え	基本的心構え、職場等での執務の心構え、職場の人間関係についての心構え、私生活上の心構え（民間企業との違い）
3	職場と仕事	地方公共団体の仕事を運営する仕組み、効率的・効果的な仕事の進め方（民間企業との違い）
4	接遇	接遇の基本、対応の仕方
5	文書事務	地方公共団体の文書、文書事務の処理手順、公用文の作成、広報
6	地方自治制度①	地方自治の位置付け、地方公共団体の種類と事務、地方公共団体の区域と住民
7	地方自治制度②	地方公共団体の機関、国と地方公共団体との関係・地方公共団体相互間の関係等、地方分権は実践の時代へ
8	地方公務員制度①	基本理念、職員の範囲と種類、人事機関、任用（民間企業との違い）
9	地方公務員制度②	職員の義務・責任、職員の権利、職員の勤務条件、給与、人材育成と人事管理、福利厚生（民間企業との違い）
10	地方公共団体の税財政と財務①	地方税財政
11	地方公共団体の税財政と財務	地方財務
12	地方公共団体の主な施策①	健康の確保と福祉の充実、環境の保全、産業の振興
13	地方公共団体の主な施策②	地域発展の基盤整備、教育文化の振興、安全な生活の確保
14	地方分権の時代と地方公共団体の課題	地方分権、地方創生、地方公共団体と職員に求められるもの
15	まとめ	授業全体のまとめ

科目コード	65047		区分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	キャリアマネジメントⅠ〔公務員〕		担当者名	横内 浩平			○		
			実務経験との関連	民間教育機関（公務員予備校等）教員としての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。					
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

公務員を目指す学生がキャリア（職業人生）を考えていくには、さまざまな採用試験について十分理解しておく必要がある。本科目では、警察官・消防士・刑務官などの公安系公務員を目指す学生がそれぞれの職種について学び、公務員としての心構えを身につけることをねらいとする。また実際に出題される試験問題を解説し、実践力を身につけることを目的として開講する。

<授業の到達目標>

1. 公務員という仕事を知り、また採用試験における「頻出分野」の理解ができるようになる。2. 3年次から開講される「公務員対策講座」を受講するための数学的基礎力を身に付けている。3. 採用試験に向けての準備を怠らない習慣を身に付けている。

<授業の方法>

1. 講義（配布プリント、パワーポイントを使用し授業を進める）2. グループワーク（授業中に出される複数の解き方がある問題に関する教え合い）3. 授業で解く問題が得意な学生に対して、難易度の高い問題を準備しclassroomなどを活用して解説する。
※一部の問題についてはインターネット上のサイトを活用して解説します。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

定期試験の結果 50%、確認テスト 35%、授業態度 15%

<教科書>

特に指定なし

<参考書>

資格試験研究会（2024年2月15日発行）

2025年度版 高卒程度公務員 知能分野問題集

実務教育出版

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	履修ガイダンス	講義の進め方について説明する。
2	公務員という仕事の理解・計算演習（1）	公務員試験全般について学ぶ。分数の計算
3	計算演習（2）	文字式
4	計算演習（3）・職種研究（1）	連立方程式、職種研究 警察官編
5	数的処理分野（1）	速さⅠ（旅人算・通過算）
6	数的処理分野（2）・職種研究（2）	速さⅡ（流水算・時計算）・職種研究 刑務官編
7	数的処理分野（3）	割合Ⅰ（相当算・売買算）
8	数的処理分野（4）・職種研究（3）	割合Ⅱ（濃度算・仕事算）・職種研究 自衛隊編
9	数的処理分野（5）	方程式・不等式Ⅰ（和差算・過不足算）
10	数的処理分野（6）・職種研究（4）	方程式・不等式Ⅱ（分配算・年齢算・平均算）・職種研究 海上保安官編
11	数的処理分野（7）	整数（約数・倍数・記数法）
12	数的処理分野（8）・職種研究（5）	確率Ⅰ（順列・組合せ）・職種研究 事務職系
13	数的処理分野（9）	確率Ⅱ（場合の数・確率）
14	数的処理分野（10）・職種研究（6）	規則性（数列・規則性の発見・計算パズル） 職種研究 その他の職種
15	まとめ	重要事項の確認・試験の注意など

科目コード	65047	区分	キャリアマネジメント I コア科目 (教職希望)	実務経験のある教員等による授業科目					
授業科目名	キャリアマネジメント I [中 高保健教員]	担当者名	延原 まどか/中島 治彦	○					
		実務経験との関連	中学校教員、高等学校教員としての実務経験がある教員が、実務経験をもとに教職について指導する。						
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

体育学科で教員コースを希望する学生が対象。体育学科選択している以上、小学校希望も、中高保健体育希望者も様々なスポーツのルール等の知識をつけることが必要と考えている。グループワーク等で自分が今まで体験してきた種目以外も、調べ学習等を通して理解していく。

<授業の到達目標>

- ・教員の適性を確認し、他者と協働しながら学ぶ態度を身に付ける。
- ・様々なスポーツ種目の特性やルール等を理解する。

<授業の方法>

- ・各スポーツ種目をグループごとに調べ、発表する。
- ・確認テストやミニテストを行い理解を深める。

<成績評価方法>※課題 (試験やレポート等) に対するフィードバックの方法

- ・グループ活動 (資料作成、ミニテスト作成、プレゼンテーション討) 20%・学習意欲・態度 (ミニテスト、出席を含む) 40%・確認テスト 40%

<教科書>

時事通信出版局 (2023年9月1日)

25 中高保健体育の完全攻略

時事通信社

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション・実力テスト	・授業内容を理解する・グループを確認する・実力テストで、現時点の理解度を把握する
2	体づくり運動	体づくり運動について理解する。
3	器械運動	・器械運動について理解する・前時の体づくり運動のミニテスト実施
4	陸上競技1	・陸上競技について理解する・前時の器械運動のミニテスト実施
5	陸上競技2	・陸上競技について理解する・前時の陸上競技のミニテスト実施
6	水泳	・水泳について理解する・前時の陸上競技のミニテスト実施
7	球技1 (ゴール型)	・球技について理解する・前時の水泳のミニテスト実施
8	球技2 (ゴール型)	・球技について理解する・前時の球技のミニテストを実施
9	球技3 (ネット型)	・球技について理解する・前時の球技のミニテストを実施
10	球技4 (ネット型)	・球技について理解する・前時の球技のミニテストを実施
11	・球技5 (ベース型)	・球技について理解する・前時の球技のミニテストを実施
12	武道1	・武道について理解する・前時の球技のミニテストを行う
13	武道2	・武道について理解する・前時の武道のミニテストを行う
14	ダンス・オリンピック	ダンスについて理解するオリンピックの概要を理解する前時の武道のミニテストを実施する
15	まとめと確認テスト	これまでの授業をまとめ、確認テストを実施し、理解の到達度を把握する

科目コード	65019	区分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目			
授業科目名	公務員と法	担当者名	宮園 司史			○			
		実務経験との関連	公務員（警察庁官僚）としての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。						
配当年次	3	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

良好な治安を確保し、国民の生命、身体及び財産を守るとは、国の基本的な責務であるが、現在、我が国の治安は、サイバー犯罪・サイバー攻撃、国際テロ、組織犯罪といった重大な脅威に直面している。本科目では、このような責務の遂行に当たっている公安系公務員の業務を詳しく紹介するとともに、警察幹部としての経験談を交えながら、我が国の安全・安心の現状や課題、警察等における各種取組等について、幅広く取り扱い、我が国のセキュリティに関する理解と認識を醸成する。

<授業の到達目標>

公安系公務員の業務や我が国のセキュリティに関する基本的な知識を身につけるとともに、「世界一安全な日本」を実現するための各種取組についての理解を深めることを目標とする。

<授業の方法>

「集中講義」方式により授業を実施する。具体的には、毎回、各テーマに沿った内容について、パワーポイント等を使用して分かりやすく説明した動画を教材として配信するとともに、それぞれの授業に関して出題する課題への回答・提出を求める。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業への参加状況・態度 50%、授業内レポート50%により、総合的に評価する（特に、受講態度については厳正にチェックする）。なお、規定以上の欠席回数がある場合および代筆レポートの提出その他受講態度に問題がある場合には、一切、単位を認めないの、注意すること。¥n

<教科書>

特になし

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	警察の任務と活動（その1）	警察の任務及び活動について、その概要を説明する。
2	警察の任務と活動（その2）	警察の任務及び活動について、その概要を説明する。
3	消防の任務と活動（その1）	消防の任務及び活動について、その概要を説明する。
4	消防の任務と活動（その2）	消防の任務及び活動について、その概要を説明する。
5	自衛隊の任務と活動（その1）	自衛隊の任務及び活動について、その概要を説明する。
6	自衛隊の任務と活動（その2）	自衛隊の任務及び活動について、その概要を説明する。
7	海上保安庁の任務と活動（その1）	海上保安庁の任務及び活動について、その概要を説明する。
8	海上保安庁の任務と活動（その2）	海上保安庁の任務及び活動について、その概要を説明する。
9	国民生活の安全確保（その1）	女性・子供の安全確保に向けた各種の取組や、昨今大きな社会問題となっている特殊詐欺の現状とその対策等について説明する。
10	国民生活の安全確保（その2）	地域住民の安全確保に向けた各種の取組や、犯罪を抑止するために進められている諸対策等について説明する。
11	犯罪情勢と捜査活動（その1）	我が国における犯罪の発生状況や検挙状況等を通じて、昨今の犯罪情勢の特徴、傾向等について説明する。
12	犯罪情勢と捜査活動（その2）	昨今の犯罪情勢に的確に対処するための課題や捜査活動の取組の現状等について説明する。
13	サイバー空間の安全確保	サイバー犯罪やサイバーテロ、サイバーインテリジェンス等、サイバー空間における各種の脅威の現状について説明する。
14	薬物犯罪を巡る動向と対策	覚せい剤等の薬物犯罪を巡る昨今の動向とその根絶に向けた対策の現状等について説明する。
15	総括・安全安心の現状	全体の講義を総括するとともに、我が国の安全・安心を脅かしている各種の治安事象や将来の見通し等について説明する。

科目コード	36505	区分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目			
授業科目名	検査・測定と評価 I	担当者名	江波戸 智希			○			
		実務経験との関連	プロスポーツチームのアカデミー、高校・大学の部活動のフィジカルコーチとしての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。						
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

体力や身体機能の評価を進める上で必要となる検査測定手技について、その目的と意義を理解し、具体的に実技できるまでの能力を習得することをねらいとする。尚、本授業は一部オンデマンド教材等使用し行うため、PCまたはタブレットを準備の上、履修すること。

<授業の到達目標>

体力や身体機能の評価についてその意義と考え方を学び、具体的な評価による問題点の抽出までのプロセスを理解し、実践できる能力が身につくようになることを目標とする。

<授業の方法>

予習を重視する。予習用の資料を配布し、教科書を基に予習をおこなった上で授業・実習等を進めていく。各テーマに対してグループワーク・ディスカッションを行う。オンデマンド資料提示や課題の提示、提出等はGoogle Classroomで行う。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲（出席評価、授業への積極的な参加、適宜出される課題） 60%，最終課題・発表（最終課題，発表） 40%

<教科書>

特になし

<参考書>

公益財団法人日本スポーツ協会（2007年9月30日）

「公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト⑤・検査・測定と評価」

（公財）日本スポーツ協会

（財）健康・体力づくり事業財団（2008）

健康運動指導士養成講習会テキスト<下>

（財）健康・体力づくり事業財団

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション及び総論	授業概要、授業の進め方、成績評価等の説明
2	スポーツ現場やトレーナーにおける検査・測定と評価の概論（1）	評価の目的、意義および役割、機能評価のプロセス
3	スポーツ現場やトレーナーにおける検査・測定と評価の概論（2）	機能評価に基づくアスレティックリハビリテーションおよびコンディショニングの目標設定、プログラム立案
4	検査・測定の手法（1）	姿勢・身体アライメント、筋萎縮の観察、計測の目的と意義、計測方法
5	検査・測定の手法（2）	関節弛緩性検査の目的と意義およびその検査測定
6	検査・測定の手法（3）	関節可動域測定の目的と意義および測定方法
7	検査・測定の手法（4）	筋タイトネスの検査測定方法
8	検査・測定の手法（5）	徒手筋力検査の目的と意義およびその検査方法
9	検査・測定の手法（6）	機器を用いた筋力、筋パワーおよび筋持久力の検査測定の目的と意義およびその検査測定方法
10	検査・測定の手法（7）	全身持久力の検査測定の目的と意義およびその具体的手法と測定指標
11	検査・測定の手法（8）	敏捷性および協調性の検査測定の目的と意義およびその具体的手法
12	検査・測定の手法（9）	身体組成の検査測定の目的と意義およびその具体的手法
13	検査・測定の手法（10）	一般的な体力測定（新体力テスト）の検査項目とその目的と概要
14	検査・測定の手法（11）	一般的な体力測定（高齢者、幼児期）の検査項目とその目的と概要
15	まとめ	検査・測定方法に関する総合討議

科目コード	36506	区分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目			
授業科目名	検査・測定と評価Ⅱ	担当者名	江波戸 智希			○			
		実務経験との関連	プロスポーツチームのアカデミー、高校・大学の部活動のフィジカルコーチとしての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。						
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本講義では、評価におけるスポーツ動作の観察・分析の目的と意義、6つのスポーツ動作（歩行動作、走動作、ストップ・方向転換動作、跳躍動作、投動作、あたり動作）に関するそれぞれのバイオメカニクスおよび動作に影響をあたえる機能的と体力的要因、さらに外傷・障害の発生機転となるスポーツ動作の特徴とメカニズムについて学習する。尚、本授業は一部オンデマンド教材等使用し行うため、PCまたはタブレットを準備の上、履修すること。

<授業の到達目標>

アスレティックトレーナーが評価を進める上で必要となるスポーツ動作の観察・分析について、その目的と意義を理解し、6つの基本動作についてそのバイオメカニクス、動作に影響を与える機能的および体力的要因を説明できるようになることを目標とする。

<授業の方法>

予習を重視する。予習用の資料を配布し、教科書を基に予習をおこなった上で授業・実習等を進めていく。各テーマに対してグループワーク・ディスカッションを行う。オンデマンド資料提示や課題の提示、提出等はGoogle Classroomで行う。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲 30%（出席評価、授業への積極的な参加）、課題レポート（適宜出される課題、最終レポート）70%

<教科書>

公益財団法人日本スポーツ協会（2007年9月30日）

「公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト⑤・検査・測定と評価」

（公財）日本スポーツ協会

<参考書>

指定なし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	スポーツ動作の観察と分析(1)	評価におけるスポーツ動作の観察・分析の目的と意義
2	スポーツ動作の観察と分析(2)	歩行動作のバイオメカニクス
3	スポーツ動作の観察と分析(3)	歩行動作に影響する要因
4	スポーツ動作の観察と分析(4)	走動作のバイオメカニクス
5	スポーツ動作の観察と分析(5)	走動作に影響を与える機能的、体力的要因外傷の発生機転となるような走動作の特徴とメカニズム
6	スポーツ動作の観察と分析(6)	ストップ・方向転換動作のバイオメカニクス
7	スポーツ動作の観察と分析(7)	ストップ・方向転換動作に影響をあたえる機能的、体力的要因外傷の発生機転となるようなストップ・方向転換動作の特徴とメカニズム
8	スポーツ動作の観察と分析(8)	跳動作のバイオメカニクス
9	スポーツ動作の観察と分析(9)	跳動作に影響をあたえる機能的、体力的要因外傷の発生機転となるような跳動作の特徴とメカニズム
10	スポーツ動作の観察と分析(10)	投動作のバイオメカニクス
11	スポーツ動作の観察と分析(11)	投動作に影響をあたえる機能的、体力的要因外傷の発生機転となるような投動作の特徴とメカニズム
12	スポーツ動作の観察と分析(12)	あたり動作のバイオメカニクス
13	スポーツ動作の観察と分析(13)	あたり動作に影響をあたえる機能的、体力的要因外傷の発生機転となるようなあたり動作の特徴とメカニズム
14	まとめ(1)	総合学習
15	まとめ(2)	スポーツ動作の観察・分析に関する総合討議

科目コード	62008	区分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目			
授業科目名	健康管理とスポーツ医学 [PP/PH用]	担当者名	河合 洋二郎			○			
		実務経験との関連	現職の内科医・スポーツドクターとしての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。						
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

アスリートにみられる内臓器官などの疾患では、疾患の病態、症状、対応策、処置、予防措置について理解させること。感染症に対する対応策では、スポーツ現場および海外遠征時に注意すべき感染症の種別、病態、症状、対応策、処置、予防策について理解させること。

<授業の到達目標>

アスリートにみられる病的現象では、病的現象（オーバートレーニング症候群、突然死、過換気症候群など）の病態、症状、原因などを理解させるとともに、それらに対する対抗策、処置、予防措置について学ぶことをねらいとする。この他、スポーツ選手にみられる摂食障害、減量障害、飲酒、喫煙などの問題点について学ぶことをねらいとする。特殊環境のスポーツ医学では、高所、低圧、高圧、暑熱環境などでの運動時における生体反応、順応、そしてそれらの環境下での障害について学ぶことをねらいとする。年齢・性別による特徴では、女性、高齢者、発育

<授業の方法>

教科書を基に、必要に応じて資料を配布して講義を進めていく。

<成績評価方法> ※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

定期試験 100%

<教科書>

「公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト④ 健康管理とスポーツ医学」

日本体育協会

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	アスリートにみられる内臓器官などの疾患 (1)	循環器系疾患（スポーツ心臓、不整脈、虚血性心疾患、Marfan症候群など）呼吸器系疾患（慢性肺疾患、運動誘発性喘息など）
2	アスリートにみられる内臓器官などの疾患 (2)	消化器系疾患（運動時の腹痛、消化管出血、下痢、急性肝炎など）血液疾患（貧血など）皮膚疾患（胼胝腫、摩擦水疱、白癬など）
3	アスリートにみられる内臓器官などの疾患 (3)	腎・泌尿器疾患（運動性蛋白尿、ヘモグロビン尿、ミオグロビン尿など）代謝性疾患（糖質代謝異常、脂質代謝異常、糖尿病、肥満など）
4	感染症に対する対応策 (1)	呼吸器感染症（上気道感染症、インフルエンザ、伝染性単核球症、重症急性呼吸器症候群など）血液感染症（A型肝炎、B型肝炎、C型肝炎、HIV免疫不全ウイルスなど）
5	感染症に対する対応策 (2)	皮膚感染症（細菌感染症、真菌感染症、ウイルス感染症など）ウイルス性結膜炎（咽頭結膜炎など）
6	感染症に対する対応策 (3)	海外遠征時に注意すべき感染症（SARS、マラリア、旅行者下痢症、デング熱など）各競技別ルールにみられる感染症対策
7	アスリートにみられる病的現象など (1)、小テスト	オーバートレーニング症候群・突然死・過換気症候群、小テスト
8	アスリートにみられる病的現象など (2)	摂食障害・減量障害・飲酒・喫煙の問題点
9	特殊環境のスポーツ医学：年齢・性別による特徴 (1)	（生体の反応と順応、各環境でみられる障害とその処置、予防方法など）時差（時差に対する反応と順応、時差に対する対策）
10	特殊環境のスポーツ医学：年齢・性別による特徴 (2)	海外遠征時の諸問題（健康管理、環境管理、その他）
11	特殊環境のスポーツ医学：年齢・性別による特徴 (3)	女性のスポーツ医学、高齢者のスポーツ医学、成長期のスポーツ医学
12	内科的メディカルチェック (1)	メディカルチェックの意義と必要性・対象別メディカルチェックの内容。メディカルチェックにおける検査項目
13	内科的メディカルチェック (2)	運動負荷試験の目的と方法・運動負荷試験の実際。運動負荷試験結果の判定基準。
14	ドーピングコントロール	アンチドーピングの目的、ドーピングの定義、禁止される物質の種類。注意すべき市販薬、事前申告を必要とする薬物、ドーピング・コントロール・ステーション同伴時の留意事項。
15	まとめ	まとめ

科目コード	40102	区 分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目			
授業科目名	バレーボール I (基礎) [PP用]	担当者名	十河 直太			○			
		実務経験との関連	専修学校専門課程科目担当者、大学スポーツサービスルームスタッフとしての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。						
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	1単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

<授業の概要>

バレーボールは、簡単なパスゲームからコンビネーションプレーまで、多彩なバリエーションを展開することができる。また、バレーボールでは構造的な特性上、プレイヤー相互の協力と信頼が不可欠である。本授業では、基本的な技能、ルール、フォーメーション等についての理解を深めると共に、基本的な技能を高め、ゲームにおける相互の連係プレーを成功させることにより、仲間とともに、バレーボールの持つ楽しさや喜びが味えるようにする。

<授業の到達目標>

パスの基本、トスの基本、スパイクの基本を習得させ、3回使ったのゲーム形式が展開出来ることを目標とする。直上オーバーハンドパス、直上アンダーハンドパスを30秒間落とさず行うことができる。

<授業の方法>

実技を中心に展開していくが、必要に応じて資料を活用し、ルールや理論を理解させ、授業を進めていく。

<成績評価方法> ※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

出席意欲と授業態度 60%、実技テスト 40%

<教科書>

特に指定なし

<参考書>

特に指定なし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	授業内容の説明と導入	バレーボールの特性の理解
2	バレーボールの歴史について	今日までのバレーボールの生い立ちと現状の理解
3	バレーボールの特性に応じたウォーミングアップ	方法の理解と実践
4	基本的な技能について（1）	スパイクおよびブロック
5	基本的な技能について（2）	レシーブ、セット、サーブ
6	基本的な技能の複合練習（1）	移動パスやグループ練習
7	基本的な技能の複合練習（2）	三段攻撃
8	基本的な技能のまとめ（1）	複合練習と実技テスト
9	基本的な技能のまとめ（2）	複合練習と実技テスト
10	ルールと審判法	ルールについての理解と審判方法の具体
11	試合形式（1）	リーグ戦
12	試合形式（2）	リーグ戦
13	試合形式（3）	リーグ戦
14	試合形式（4）	リーグ戦
15	まとめ	総合的レポート

科目コード	40102	区 分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目			
授業科目名	バレーボール I (基礎) [PP用]	担当者名	十河 直太			○			
		実務経験との関連	専修学校専門課程科目担当者、大学スポーツサービスルームスタッフとしての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。						
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	1単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

<授業の概要>

バレーボールは、簡単なパスゲームからコンビネーションプレーまで、多彩なバリエーションを展開することができる。また、バレーボールでは構造的な特性上、プレイヤー相互の協力と信頼が不可欠である。本授業では、基本的な技能、ルール、フォーメーション等についての理解を深めると共に、基本的な技能を高め、ゲームにおける相互の連携プレーを成功させることにより、仲間とともに、バレーボールの持つ楽しさや喜びが味えるようにする。

<授業の到達目標>

パスの基本、トスの基本、スパイクの基本を習得させ、3回使ったゲーム形式が展開出来ることを目標とする。直上オーバーハンドパス、直上アンダーハンドパスを30秒間落とさず行うことができる。

<授業の方法>

実技を中心に展開していくが、必要に応じて資料を活用し、ルールや理論を理解させ、授業を進めていく。

<成績評価方法> ※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

出席意欲と授業態度 60%、実技テスト 40%

<教科書>

特に指定なし

<参考書>

特に指定なし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	授業内容の説明と導入	バレーボールの特性の理解
2	バレーボールの歴史について	今日までのバレーボールの生い立ちと現状の理解
3	バレーボールの特性に応じたウォーミングアップ	方法の理解と実践
4	基本的な技能について（1）	スパイクおよびブロック
5	基本的な技能について（2）	レシーブ、セット、サーブ
6	基本的な技能の複合練習（1）	移動パスやグループ練習
7	基本的な技能の複合練習（2）	三段攻撃
8	基本的な技能のまとめ（1）	複合練習と実技テスト
9	基本的な技能のまとめ（2）	複合練習と実技テスト
10	ルールと審判法	ルールについての理解と審判方法の具体
11	試合形式（1）	リーグ戦
12	試合形式（2）	リーグ戦
13	試合形式（3）	リーグ戦
14	試合形式（4）	リーグ戦
15	まとめ	総合的レポート

科目コード	40101	区分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目			
授業科目名	バスケットボール I (基礎)	担当者名	國友 亮佑			○			
		実務経験との関連	事業団スポーツチームのストレングス & コンディショニングコーチとしての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。						
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	1単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

<授業の概要>

バスケットボールは世界各国で親しまれている競技人口の多いスポーツである。また、中・高等学校の体育の授業においてもバスケットボールはゴール型の選択種目として採用されている競技である。本授業では、バスケットボールの競技特性及び競技ルール理解し、その基礎技術（シュート・ドリブル、パスなど）を身につけ、個人と集団のファンダメンタルや集団戦術を習得し、身につけた力でゲームを楽しむことを目的にしている。また仲間ともに楽しむ力を身につけ、生涯にわたりバスケットボール競技を楽しむ力を養うことを狙いとする。

<授業の到達目標>

1 バスケットボール競技を安全に配慮しながら、仲間と共に目的ある活動を行うことができる。2 バスケットボールにおける競技特性や基本的な競技ルールを十分に理解することができる。3 個人技術や集団戦術の修得に向けての練習法についても理解し、仲間と協力・工夫しながら実践することができる。（スキルについては、教員採用試験出題レベルが出来るようになる）

<授業の方法>

実技形式が基本となり、グループ活動を中心に展開する。必要に応じて資料を配布し解説を行い、各技能習得に関するデモンストラーションを実施する。また、情報や仲間の意見や考え方をDropboxを利用し、理解・共有できるようにする。

<成績評価方法> ※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度 40%、実技テスト40%、知識レポート20%

<教科書>

特になし

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	受講上の注意、評価方法、講義の概念
2	基本技術の習得（1）	ボールハンドリング技術
3	基礎技術の習得（2）	ドリブル技術の練習
4	基本技術の習得（3）	パス技術、キャッチング技術
5	基本技術の習得（4）	シュート技術の練習①（レイアップシュート）
6	基本技術の習得（5）	シュート技術の練習②（ゴール下、セットシュート）
7	基本技術の習得（6）	シュート技術の練習③（ジャンプシュート）
8	基本技術の習得（7）	リバウンド、スクリーンアウト
9	基本技術の習得（8）	ディフェンススキル、フットワーク
10	応用技術の習得（1）	2メンレイアップシュート、ミートシューティング
11	応用技術の習得（2）	3メンレイアップシュート、アウトナンバー
12	実践技術の習得（1）	ルールの理解、コート理解、3対3
13	実践技術の習得（2）	リーグ戦①（5対5）
14	実践技術の習得（3）	リーグ戦②（5対5）
15	まとめ	実技試験

科目コード	40101	区 分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目			
授業科目名	バスケットボール I (基礎)	担当者名	國友 亮佑			○			
		実務経験との関連	事業団スポーツチームのストレングス & コンディショニングコーチとしての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。						
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	1単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

<授業の概要>

バスケットボールは世界各国で親しまれている競技人口の多いスポーツである。また、中・高等学校の体育の授業においてもバスケットボールはゴール型の選択種目として採用されている競技である。本授業では、バスケットボールの競技特性及び競技ルール理解し、その基礎技術（シュート・ドリブル、パスなど）を身につけ、個人と集団のファンダメンタルや集団戦術を習得し、身につけた力でゲームを楽しむことを目的にしている。また仲間とともに楽しむ力を身につけ、生涯にわたりバスケットボール競技を楽しむ力を養うことを狙いとする。

<授業の到達目標>

1 バスケットボール競技を安全に配慮しながら、仲間と共に目的ある活動を行うことができる。2 バスケットボールにおける競技特性や基本的な競技ルールを十分に理解することができる。3 個人技術や集団戦術の修得に向けての練習法についても理解し、仲間と協力・工夫しながら実践することができる。（スキルについては、教員採用試験出題レベルが出来るようになる）

<授業の方法>

実技形式が基本となり、グループ活動を中心に展開する。必要に応じて資料を配布し解説を行い、各技能習得に関するデモンストラーションを実施する。また、情報や仲間の意見や考え方をDropboxを利用し、理解・共有できるようにする。

<成績評価方法> ※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度 40%、実技テスト40%、知識レポート20%

<教科書>

特になし

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	受講上の注意、評価方法、講義の概念
2	基本技術の習得（1）	ボールハンドリング技術
3	基礎技術の習得（2）	ドリブル技術の練習
4	基本技術の習得（3）	パス技術、キャッチング技術
5	基本技術の習得（4）	シュート技術の練習①（レイアップシュート）
6	基本技術の習得（5）	シュート技術の練習②（ゴール下、セットシュート）
7	基本技術の習得（6）	シュート技術の練習③（ジャンプシュート）
8	基本技術の習得（7）	リバウンド、スクリーンアウト
9	基本技術の習得（8）	ディフェンススキル、フットワーク
10	応用技術の習得（1）	2メンレイアップシュート、ミートシューティング
11	応用技術の習得（2）	3メンレイアップシュート、アウトナンバー
12	実践技術の習得（1）	ルールの理解、コート理解、3対3
13	実践技術の習得（2）	リーグ戦①（5対5）
14	実践技術の習得（3）	リーグ戦②（5対5）
15	まとめ	実技試験

科目コード	40119	区 分	コア			実務経験のある教員等による授業科目			
授業科目名	ラグビー [男子用]	担当者名	小村 淳			○			
		実務経験との関連	日本代表選手、実業団チーム選手、ヘッドコーチとしての実務経験がある教員が実務経験を踏まえたテーマを扱い指導する。						
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	1	授業方法	実技	卒業要件	選択

<授業の概要>

ラグビーとは、2つのチームが競技規則及びスポーツ精神に則り、ボールを持って走り、パス、キックを使いグラウディングして、できる限り得点を多くあげたチームがその試合の勝者となる。試合を行う為の基本スキルを実技として行う。

<授業の到達目標>

基本スキルのランニング、ハンドリング、キック、コンタクト、ユニット（スクラム/ラインアウト/キックオフ）から指導し、ルールに基づきボールゲーム形式でラグビーを理解させることを目的とする。

<授業の方法>

実技学習では、グループに分かれてスキルごとにフォーカスポイントを伝え実施する。ルールやゲーム理解については講義や映像での説明を行う。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度（積極性・協調性・相互促進性など）30%、基本スキルの評価40%、応用スキル30%

<教科書>

特になし

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	授業内容説明	ラグビー競技の説明、授業計画説明、注意事項説明
2	個人技能 (1)	ランニングスキル、ハンドリングスキル
3	個人技能 (2)	ランニング、ハンドリング応用スキル
4	ボールゲーム	ルールの説明と実施
5	個人技能 (3)	キックと個人技能 (1) (2) のレビュー
6	個人技能 (4)	キック応用、コンタクトスキル
7	キッキングゲーム	ルール説明と実施
8	ゲーム	ボール&キッキング
9	集団技能 (1)	スクラムの説明と実施
10	集団技能 (2)	ラインアウトの説明と実施
11	集団技能 (3)	キックオフ、ドロップアウトの説明と実施
12	集団技能 (4)	スクラム、ラインアウト、キックオフ応用
13	ゲーム (1)	ルール説明と実施
14	ゲーム (2)	ルール説明と実施
15	まとめ	ラグビー競技の理解と映像での試合観戦

科目コード	40120	区 分	コア科目		実務経験のある教員等による授業科目				
授業科目名	サッカー [PP男子用]	担当者名	降屋 丞		○				
		実務経験との関連	プロスポーツチームスクールコーチとしての実務経験がある教員が、実務経験をもとに教職について指導する。						
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	1単位	授業方法	実技	卒業要件	選択必修

<授業の概要>

サッカーは世界で最も親しまれているスポーツのひとつであり、ルールも非常に単純で、ボールとゴールさえあればできるスポーツである。しかし、主に足でボールを扱うことから経験者と未経験者との技術の差が大きく表れるスポーツでもある。この授業では、ボールを扱う技術を高める練習法を学び、技術を高め、ゲームを楽しめるようにする。そして、サッカーというスポーツに対する理解を深める。

<授業の到達目標>

サッカーの技術を習得する練習・指導法を学び、自らも技術を上達させる。特にリフティングが30回できるようにする。また、戦術面の練習も行い、サッカーへの理解を深める。そして、ゲームの中でルールも学び、サッカーのゲームを楽しめるようにする。

<授業の方法>

幅広くコミュニケーションが取れるように、授業ごとにグループを編成し、授業の最後にはゲームを行う。履修上限60名

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度 50%、実技テスト 50%

<教科書>

特になし

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業の進め方・アンケート
2	基礎技術のトレーニング(1)	ボールフィーリング、ボールタッチ
3	基礎技術のトレーニング(2)	ドリブル
4	基礎技術のトレーニング(3)	各種キック
5	基礎技術のトレーニング(4)	パス、トラップ
6	応用技術のトレーニング(1)	ターン、ボールキープ
7	応用技術のトレーニング(2)	フェイント
8	ボールポゼッション(1)	少人数でのボールポゼッション
9	ボールポゼッション(2)	多人数でのボールポゼッション
10	個人戦術	1対1
11	グループ戦術(1)	2対1、2対2
12	グループ戦術(2)	3対2、3対3
13	グループ戦術(3)	4対4
14	リーグ戦	リーグ戦の進め方
15	トーナメント戦	トーナメント戦の進め方

科目コード	40121	区分	体育実技	実務経験のある教員等による授業科目					
授業科目名	ソフトボール [PP男子+他学科男子]	担当者名	山本 清人/原田 悠平	○					
		実務経験との関連	担当者の中で高等学校教員としての実務経験がある教員が実務経験を踏まえたテーマを扱い指導する。						
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	1単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

<授業の概要>

ソフトボールの用具や競技施設、ルール、運動の特性、競技の特性を理解し、ソフトボールの基本的な技術（例えば、ボールの持ち方、投げ方、バットの握り方、グラブの操作方法など）を学ぶ。また、守備の基本（投球、守備）から攻撃の基本（打撃、走塁）などの個人技術の習得を目指し、その後、ゲーム形式でソフトボールを実施する。本授業は履修人数制限を設けています。※履修者が制限を超えた場合は受講日を調整する場合があります。

<授業の到達目標>

- (1) 状況に応じたバット操作と走塁での攻撃、安定したボール操作と状況に応じた守備などによって攻防をすることができる。
- (2) 生涯にわたって運動を豊かに継続するためのチームや自己の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに、自己やチームの考えたことを他者に伝えることができる。
- (3) 球技に主体的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする事、合意形成に貢献しようとする事、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする事、互いに助け合い高め合おうとする事

<授業の方法>

実技を中心にグラウンドで実践指導を行う。バッティング・守備及びピッチングなどの理論が必要なときは随時説明をする。1. グループワーク（予習内容に関する確認） 2. 実技（教員による解説と新たな技術習得のため問題提示） タブレット・スマホ等を利用し、動画を撮影し技術習得に活かす。 3. ディスカッション（問題提示に対する回答） 4. 省察活動（まとめ）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

出席意欲40%、予習10%、課題レポートの内容20%、実技テスト30%

<教科書>

特になし

<参考書>

財団法人日本ソフトボール協会
「ソフトボール指導者教本」
日本体育社

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	指導者のあり方（ガイダンス）	指導者としての心得、指導の実際、環境整備、安全管理
2	ソフトボールの歴史	ソフトボールの誕生・発展、ソフトボール情勢
3	ソフトボールの技術と指導法（1）	投球の基礎技術 投球モーションのフォームと特徴
4	ソフトボールの技術と指導法（2）	守備の基礎技術 送球・捕球、守備位置と守備範囲
5	ソフトボールの技術と指導法（3）	守備の基礎技術 ポジション別の技術
6	ソフトボールの技術と指導法（4）	打撃の基礎技術
7	ソフトボールの技術と指導法（5）	バントの基礎技術
8	ソフトボールの技術と指導法（6）	走塁の基礎技術
9	集団技術の理解（1）	ポジション別守備練習と連係プレー
10	集団技術の理解（2）	試合形式シートバッティング
11	総合的ゲーム展開（1）	紅白戦で実戦練習（1）
12	総合的ゲーム展開（2）	紅白戦で実戦練習（2）
13	総合的ゲーム展開（3）	紅白戦で実戦練習（3）
14	打撃系実技到達度確認	試合形式でバッティングテスト
15	守備系実技到達度確認	試合形式でポジション別守備テスト

科目コード	40121	区分	体育実技	実務経験のある教員等による授業科目					
授業科目名	ソフトボール [PP男子+他学科男子]	担当者名	山本 清人/原田 悠平	○					
		実務経験との関連	担当者の中で高等学校教員としての実務経験がある教員が実務経験を踏まえたテーマを扱い指導する。						
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	1単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

<授業の概要>

ソフトボールの用具や競技施設、ルール、運動の特性、競技の特性を理解し、ソフトボールの基本的な技術（例えば、ボールの持ち方、投げ方、バットの握り方、グラブの操作方法など）を学ぶ。また、守備の基本（投球、守備）から攻撃の基本（打撃、走塁）などの個人技術の習得を目指し、その後、ゲーム形式でソフトボールを実施する。本授業は履修人数制限を設けています。※履修者が制限を超えた場合は受講日を調整する場合があります。

<授業の到達目標>

- (1) 状況に応じたバット操作と走塁での攻撃、安定したボール操作と状況に応じた守備などによって攻防をすることができる。
- (2) 生涯にわたって運動を豊かに継続するためのチームや自己の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに、自己やチームの考えたことを他者に伝えることができる。
- (3) 球技に主体的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする事、合意形成に貢献しようとする事、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする事、互いに助け合い高め合おうとする事

<授業の方法>

実技を中心にグラウンドで実践指導を行う。バッティング・守備及びピッチングなどの理論が必要なときは随時説明をする。1. グループワーク（予習内容に関する確認）2. 実技（教員による解説と新たな技術習得のため問題提示）タブレット・スマホ等を利用し、動画を撮影し技術習得に活かす。3. ディスカッション（問題提示に対する回答）4. 省察活動（まとめ）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

出席意欲40%、予習10%、課題レポートの内容20%、実技テスト30%

<教科書>

特になし

<参考書>

財団法人日本ソフトボール協会
「ソフトボール指導者教本」
日本体育社

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	指導者のあり方（ガイダンス）	指導者としての心得、指導の実際、環境整備、安全管理
2	ソフトボールの歴史	ソフトボールの誕生・発展、ソフトボール情勢
3	ソフトボールの技術と指導法（1）	投球の基礎技術 投球モーションのフォームと特徴
4	ソフトボールの技術と指導法（2）	守備の基礎技術 送球・捕球、守備位置と守備範囲
5	ソフトボールの技術と指導法（3）	守備の基礎技術 ポジション別の技術
6	ソフトボールの技術と指導法（4）	打撃の基礎技術
7	ソフトボールの技術と指導法（5）	バントの基礎技術
8	ソフトボールの技術と指導法（6）	走塁の基礎技術
9	集団技術の理解（1）	ポジション別守備練習と連係プレー
10	集団技術の理解（2）	試合形式シートバッティング
11	総合的ゲーム展開（1）	紅白戦で実戦練習（1）
12	総合的ゲーム展開（2）	紅白戦で実戦練習（2）
13	総合的ゲーム展開（3）	紅白戦で実戦練習（3）
14	打撃系実技到達度確認	試合形式でバッティングテスト
15	守備系実技到達度確認	試合形式でポジション別守備テスト

科目コード	40104	区分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目			
授業科目名	ハンドボール I (基礎)	担当者名	仙波 慎平			○			
		実務経験との関連	日本代表選手、実業団チーム選手、日本ハンドボール協会情報科学委員会委員、アナリストとしての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。						
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	1単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

<授業の概要>

ハンドボールは、ヨーロッパで発展した、スピーディーでダイナミックなプレーが人気のボールゲームである。走・跳・投という基本的な運動要素がバランスよく含まれており、発達段階にある子供に対しても有用な教材として学習指導要領にも取り上げられている。本講義では、ハンドボールの基礎、専門的運動技能と実技指導能力を学習する。(1クラスの定員50名とする。)

<授業の到達目標>

ハンドボールのルールと競技特性を理解し、ゲームを楽しむことができること、ボールゲームとしてのハンドボールの成り立ちに着目した上で、ゲームに必要な基礎的技術、戦術を身につける。

<授業の方法>

実技を通して、ハンドボールを学習し、随時その理論的背景を説明する。また、資料、映像等を必要に応じて活用し講義授業をすすめていく。

<成績評価方法> ※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

授業態度 50%、技術・戦術遂行能力・運動学習能力 30%、レポート 20%

<教科書>

特になし

<参考書>

笹倉清則 (2003)

「Tactics of Handball in The World」

財団法人日本ハンドボール協会

酒巻清治 (2012)

「基本が身につく ハンドボール 練習メニュー200」

池田書店

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	授業の説明、ルール説明、ハンドボールの映像観察
2	個人技術の習得	パス・キャッチ技術の習得
3	個人技術の習得 (2)	シュートの種類、基本動作の習得
4	原始的ゲーム	基本的ルールの説明、少人数での速攻ゲーム
5	対人的技術・戦術 (1)	1対1状況における攻撃と防御の基礎スキル、少人数ゲーム (1)
6	対人的技術・戦術 (2)	1対1状況における攻撃と防御の応用スキル、少人数ゲーム (2)
7	グループ戦術 (1)	2対2状況における攻撃と防御の基礎スキル、ゲーム (1)
8	グループ戦術 (2)	2対2状況における攻撃と防御の応用スキル、ゲーム (2)
9	ゲーム (1)	ゲーム実施およびその運営
10	ゲーム (2)	課題抽出とその修正、ゲーム実施およびその運営 (1)
11	ゲーム (3)	課題抽出とその修正、ゲーム実施およびその運営 (2)
12	ゲーム (4)	課題抽出とその修正、ゲーム実施およびその運営 (3)
13	ゲーム (5)	課題抽出とその修正、ゲーム実施およびその運営 (4)
14	ゲーム (6)	課題抽出とその修正、ゲーム実施およびその運営 (5)
15	ゲーム (7)	課題抽出とその修正、ゲーム実施およびその運営 (6)

科目コード	40104	区 分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目			
授業科目名	ハンドボール I (基礎)	担当者名	仙波 慎平			○			
		実務経験との関連	日本代表選手、実業団チーム選手、日本ハンドボール協会情報科学委員会委員、アナリストとしての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。						
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	1単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

<授業の概要>

ハンドボールは、ヨーロッパで発展した、スピーディーでダイナミックなプレーが人気のボールゲームである。走・跳・投という基本的な運動要素がバランスよく含まれており、発達段階にある子供に対しても有用な教材として学習指導要領にも取り上げられている。本講義では、ハンドボールの基礎、専門的運動技能と実技指導能力を学習する。(1クラスの定員50名とする。)

<授業の到達目標>

ハンドボールのルールと競技特性を理解し、ゲームを楽しむことができること、 ボールゲームとしてのハンドボールの成り立ちに着目した上で、ゲームに必要な基礎的技術、戦術を身につける。

<授業の方法>

実技を通して、ハンドボールを学習し、随時その理論的背景を説明する。また、資料、映像等を必要に応じて活用し講義授業をすすめていく。

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

授業態度 50%、技術・戦術遂行能力・運動学習能力 30%、レポート 20%

<教科書>

特になし

<参考書>

笹倉清則(2003)

「Tactics of Handba in The Word」

財団法人日本ハンドボール協会

酒巻清治(2012)

「基本が身につく ハンドボール 練習メニュー200」

池田書店

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	授業の説明、ルール説明、ハンドボールの映像観察
2	個人技術の習得	パス・キャッチ技術の習得
3	個人技術の習得(2)	シュートの種類、基本動作の習得
4	原始的ゲーム	基本的ルールの説明、少人数での速攻ゲーム
5	対人的技術・戦術(1)	1対1状況における攻撃と防御の基礎スキル、少人数ゲーム(1)
6	対人的技術・戦術(2)	1対1状況における攻撃と防御の応用スキル、少人数ゲーム(2)
7	グループ戦術(1)	2対2状況における攻撃と防御の基礎スキル、ゲーム(1)
8	グループ戦術(2)	2対2状況における攻撃と防御の応用スキル、ゲーム(2)
9	ゲーム(1)	ゲーム実施およびその運営
10	ゲーム(2)	課題抽出とその修正、ゲーム実施およびその運営(1)
11	ゲーム(3)	課題抽出とその修正、ゲーム実施およびその運営(2)
12	ゲーム(4)	課題抽出とその修正、ゲーム実施およびその運営(3)
13	ゲーム(5)	課題抽出とその修正、ゲーム実施およびその運営(4)
14	ゲーム(6)	課題抽出とその修正、ゲーム実施およびその運営(5)
15	ゲーム(7)	課題抽出とその修正、ゲーム実施およびその運営(6)

科目コード	38401	区分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目			
授業科目名	武道指導論 [剣道]	担当者名	平田 佳弘			○			
		実務経験との関連	高等学校教員としての実務経験がある教員が、実務経験をもとに武道について指導する。						
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本授業の目的は、武道（柔道・剣道）の実践者・指導者としての専門性を高めることである。柔道・剣道は、日本古来の伝統文化であり、それぞれ柔術・剣術から生まれ、戦う方法であった柔術・剣術を、嘉納治五郎（柔）や内藤高治・高野佐三郎ら（剣）が、単に技術を身につけるだけにとどまらず、その練習を通して、人の生き方・生きる道を示し、人間形成を目指すものに昇華させたのである。武道の専門家として、武道実践する心構え、武道の本質、歴史、あるべき姿、武道教育の役割について学び、学修成果として、それを実践できる、論じ合える、追求

<授業の到達目標>

1. 武道（柔道・剣道）の理念、歴史や特性、礼法の重要性を学び、武道とは何か、また現代における武道のあるべき姿をディスカッションすることが出来る。2. 武道の専門家として、自分の課題を発見し、意識して課題に取り組むことができる。3. 武道教育の役割についてその重要性を学び、武道理論を持った指導者として指導・実践できる力を身に付ける。

<授業の方法>

1. 前回の復習（小テスト、口頭諮問）2. 今回の内容説明（講義、ワークシート）3. 今回の内容についての意見交換及びディスカッション4. 事後課題に取り組む※柔道専門の選択者は柔道実技（形）、剣道専門の選択者は剣道実技（形）を数時間実施する。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度 30%、レポート50%、実技試験（柔道、剣道）20%

<教科書>

特になし

<参考書>

宮本武蔵（神子侃 訳）1982

五輪書

徳間書店

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	武道とは何か、武道教育はなぜ必要か（武道教育のはたす役割）等、武道指導論で取り扱う内容について説明し、授業の進め方、ルール（遅刻、欠席、公欠等）について確認する。
2	柔道の歴史	柔道の歴史について学ぶ
3	柔道の国際化①	柔道は何故世界に受け入れられたか
4	柔道の国際化②	海外における柔道指導の現状と問題点
5	柔道の指導法①	現代社会が求める柔道指導者とは
6	柔道の指導法②	中学校における教科体育の柔道指導の在り方
7	柔道の指導法③	高等学校における教科教育の柔道指導の在り方
8	柔道の指導法④	柔道の競技化と強化策
9	剣道の歴史	剣道の歴史について学習する。（平安時代～現代）
10	剣道の目的、剣道理念	全日本剣道連盟が定める、剣道の目的、剣道理念について学習する。
11	学校現場（中学校・高等学校）における剣道授業、剣道部活動指導	中学校・高等学校学習指導要領保健体育編を参考に進める。
12	宮本武蔵著「五輪書」（1）	「五輪書」の「序の巻」、「地の巻」について学習する。
13	宮本武蔵著、「五輪書」（2）	「五輪書」の「水の巻」、「火の巻」について学習する。
14	宮本武蔵著「五輪書」（3）	「五輪書」の「風の巻」、「空の巻」について学習する。
15	武道指導の総括	これまでの授業の総括として、日本の伝統文化としての武道とは何か、武道教育の役割とは何かについて議論する。

科目コード	38401	区分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目			
授業科目名	武道指導論 [柔道]	担当者名	矢野 智彦			○			
		実務経験との関連	実業団の選手、監督としての実務経験がある教員が、実務経験をもとに武道について指導する。						
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本授業の目的は、武道（柔道・剣道）の実践者・指導者としての専門性を高めることである。柔道・剣道は、日本古来の伝統文化であり、それぞれ柔術・剣術から生まれ、戦う方法であった柔術・剣術を、嘉納治五郎（柔）や内藤高治・高野佐三郎ら（剣）が、単に技術を身につけるだけにとどまらず、その練習を通して、人の生き方・生きる道を示し、人間形成を目指すものに昇華させたのである。武道の専門家として、武道実践する心構え、武道の本質、歴史、あるべき姿、武道教育の役割について学び、学修成果として、それを実践できる、論じ合える、追求

<授業の到達目標>

1. 武道（柔道・剣道）の理念、歴史や特性、礼法の重要性を学び、武道とは何か、また現代における武道のあるべき姿をディスカッションすることが出来る。2. 武道の専門家として、自分の課題を発見し、意識して課題に取り組むことができる。3. 武道教育の役割についてその重要性を学び、武道理論を持った指導者として指導・実践できる力を身に付ける。

<授業の方法>

1. 前回の復習（小テスト、口頭諮問）2. 今回の内容説明（講義、ワークシート）3. 今回の内容についての意見交換及びディスカッション4. 事後課題に取り組む※柔道専門の選択者は柔道実技（形）、剣道専門の選択者は剣道実技（形）を数時間実施する。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度 30%、レポート50%、実技試験（柔道、剣道）20%

<教科書>

特になし

<参考書>

宮本武蔵（神子侃 訳）1982

五輪書

徳間書店

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	武道とは何か、武道教育はなぜ必要か（武道教育のはたす役割）等、武道指導論で取り扱う内容について説明し、授業の進め方、ルール（遅刻、欠席、公欠等）について確認する。
2	柔道の歴史	柔道の歴史について学ぶ
3	柔道の国際化①	柔道は何故世界に受け入れられたか
4	柔道の国際化②	海外における柔道指導の現状と問題点
5	柔道の指導法①	現代社会が求める柔道指導者とは
6	柔道の指導法②	中学校における教科体育の柔道指導の在り方
7	柔道の指導法③	高等学校における教科教育の柔道指導の在り方
8	柔道の指導法④	柔道の競技化と強化策
9	剣道の歴史	剣道の歴史について学習する。（平安時代～現代）
10	剣道の目的、剣道理念	全日本剣道連盟が定める、剣道の目的、剣道理念について学習する。
11	学校現場（中学校・高等学校）における剣道授業、剣道部活動指導	中学校・高等学校学習指導要領保健体育編を参考に進める。
12	宮本武蔵著「五輪書」（1）	「五輪書」の「序の巻」、「地の巻」について学習する。
13	宮本武蔵著、「五輪書」（2）	「五輪書」の「水の巻」、「火の巻」について学習する。
14	宮本武蔵著「五輪書」（3）	「五輪書」の「風の巻」、「空の巻」について学習する。
15	武道指導の総括	これまでの授業の総括として、日本の伝統文化としての武道とは何か、武道教育の役割とは何かについて議論する。

科目コード	40202		区 分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	バレーボールⅡ(応用)[教職用]		担当者名	十河 直太			○		
			実務経験との関連	専修学校専門課程科目担当者、大学スポーツサービスマンスタッフとしての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。					
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	1単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

<授業の概要>

バレーボールは集団のスポーツであり、集団による協力が重要である。球技種目履修の意義は、球技種目における個人技術の向上、技術、戦術の理解や、体力トレーニングの方法を学ぶだけでなく、この集団による協力の重要性を、ゲームを通して肌で感じることにある。また単に技術向上をねらいとするだけではなく、将来指導者、教員を目指すことを想定し、指導法についても講義する。なお、バレーボールⅡ（応用）は、バレーボールⅠ（基礎）を修得していることが履修の条件となる。

<授業の到達目標>

スパイク技術、レシーブ技術、ブロック技術、サーブ技術を向上させると同時にそれらを指導できる力を身につけることを目標とする。さらにバレーボールのルールや審判法、コートの設定における知識と技術についても身につけることを目標とする。

<授業の方法>

体育館で実技方式で実施する。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

出席意欲と授業態度 40%、実技テスト及びレポート 60%

<教科書>

特になし

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	内容説明と導入	本授業の内容と目的、到達目標についての説明
2	バレーボールの基礎技術①	オーバハンドパス、アンダーハンドパス
3	バレーボールの基礎技術②	対人レシーブ、サーブ
4	バレーボールの基礎技術③	スパイク、ブロック
5	バレーボールの審判法	審判法の理解と実践
6	バレーボールの指導法①	パスの指導法
7	バレーボールの指導法②	スパイク、サーブの指導法
8	バレーボールの指導法③	3段攻撃の指導法（パス、アタック、ブロック）と救急法
9	バレーボールの指導法④	ゲームの指導法
10	指導実践①	パスの指導実践
11	指導実践②	スパイクの指導実践
12	指導実践③	スパイクの指導実践
13	指導実践④	総合練習の指導実践
14	指導実践⑤	6人制ゲームの指導実践
15	振り返りと、レポート	まとめ及びレポート